

2日(月)

主の名は堅固なやぐら

今日の聖書箇所 箴言 18:8-24

- 8 陰口をたたく者のことばは、おいしい食べ物。
腹の奥に下って行く。
- 9 自分の仕事をさえ怠ける者は、滅びをもたらす者の兄弟である。
- 10 主の名は堅固なやぐら。
正しい人はその中に駆け込み、保護される。
- 11 富む者の財産はその堅固な城。
自分ではそそり立つ城壁のように思い描いている。
- 12 人の心の高慢は破滅に先立ち、謙遜は栄誉に先立つ。
- 13 よく聞かないで返事をする者は、愚かであり、恥を見る。
- 14 人の霊は病苦も忍ぶ。
しかし、打ちひしがれた霊はだれが担えるだろう。
- 15 悟りのある者の心は知識を得、知恵のある者の耳は知識を求める。
- 16 人の贈り物はその人のために道を開き、
- 身分の高い人の前にも彼を導く。
- 17 最初に訴える者は、
相手が来て彼を調べるまでは、正しく見える。
- 18 くじは争いをやめさせ、
強い者の間に決着をつける。
- 19 反抗する兄弟は堅固な城よりも近寄りにくい。
- 争いは宮殿のかんぬきのようなだ。
- 20 人はその口の結ぶ実によって腹を満たし、
その唇の収穫で満ち足りる。
- 21 死と生は舌に支配される。
どちらかを愛して、人はその実を食べる。
- 22 妻を見つける者は幸せを見つけ、
主から恵みをいただく。
- 23 貧しい者は哀願するが、
富む者は荒々しく答える。
- 24 多くの友に関わる人は身を滅ぼす。
しかし、兄弟以上に親密な友人もいる。



みことばを味わおう

「主の名は堅固なやぐら。正しい人はその中に駆け込み、保護される」(10節)。箴言のみことばは、人間にとって堅固なやぐらは主の名にはかならないことを教えています。しかし、「富む者の財産はその堅固な城。自分ではそそり立つ城壁のように思い描いている」(11節)。主の名というやぐらに信頼するの、それとも富を城壁として思い込むのかは、イスラエルの民にとっていつも問われることでした。約束の地カナンに入った後、パアル(豊穡の神)信仰との戦いは繰り返されました。人は、いつも「富」の誘惑に心を揺さぶられ、主の名よりも、財産のほうが確かな「城壁」だと思い込んでしまうのです。

しかし、この世の富や財産は、確かに力をもち、堅固な城壁のように思えますが、絶対的なものではありません。アッシリア帝国、バビロン帝国、ペルシア帝国、ローマ帝国と聖書の世界でも次々と巨大な財産を手にした大国が「堅固な城」、「そそり立つ城壁」を造り上げました。その時代を生きる人々の多くは、それらの大国が滅びを迎えるなど想像することはできなかったでしょう。しかし、巨木が自らの重さに耐えられなくなり倒壊することがあるように、堅固な城を築いたと思われた帝国は、歴史の中で滅びを経験しました。

財産があれば人生は確かなものになるような錯覚が私たちのうちにあるようです。テレビのコマーシャルでも、電車のつり広告でも、書店に並ぶ本を見ても、いかに財産を上手に積み上げ、自分の老後を保障するかが賢い生き方のように教えています。確かに、計画的に富を管理することは大切なことです。しかし、クリスチャンにとって忘れてはならないことは、私たちは自分で自分の人生を保障することはできないということです。

イエス様がお語りになった「愚かな金持ちのたとえ」(ルカ 12:13 以下)を思い出します。あのとえに登場する金持ちは、思いも寄らない豊作を経験した時に、「私の倉を壊して、もっ



聖書から教えられたことを書き留めよう

と大きいのを建て、私の穀物や財産はすべてそこにしまっておこう」と計画しました。そして、金持ちは、「これから先何年分もいっぱい物がためられた。さあ休め。食べて、飲んで、楽しめ」と自らに言うのでした。きっと「堅固な城」、「そそり立つ城壁」を築くことができたと思ったのでしょう。しかし、この人は、神に「愚か者」と呼ばれ、その夜に魂は取り去られてしまうのでした。

この金持ちのたとは、人ごとではないでしょう。私たちも、老後の心配をしないで済むほどに財産を用意することのできた者に憧れを抱くかもしれません。しかし、たとえ金持ちは「愚か者」と神に呼ばれてしまったのです。イエス様はたとえにつなげて、弟子たちに「何を食べようかと、いのちのことで心配したり、何を着ようかと、からだのことで心配したりするのはやめなさい。…むしろ、あなたがたは御国を求めなさい。そうすれば、これらのものはそれに加えて与えられます」(ルカ12:22、31)と語られました。

主の御名こそ、私たちの堅固なやぐらです。ここを離れるとき、私たちは思い煩いに心が支配されてしまうのです。主の御名に駆け込み、その守りの中で、歩む者たちでありましょう。

祈り —— 私たちの必要のすべてをご存じである神様。あなたの御名をほめたたえます。あなたの名こそ私たちのやぐらです。主よ、私たちを誘惑からお守りください。あなた以外のものを力とする誘惑から守ってください。

✿ 「みことばを味わおう」から教えられたことを書き留めよう

Living Bible リビング・バイブルで読む 箴言 18:8-24

- | | |
|---|--|
| 8 陰口はよだれの出そうなごちそうのよう
に、
大いに食欲をそそります。 | 18 いくら言い争っても解決しないときは、
くじで決めなさい。 |
| 9 怠け者は破壊する者の兄弟です。 | そうすれば丸くおさまります。 |
| 10 主は絶対安全なとりで、
正しい人はその中に逃げ込みます。 | 19 堅固な城を攻め落とすより、
けんかした友人と仲直りするほうが大
変です。 |
| 11 金持ちは浅はかにも、
「富がすべて。富さえあれば安全だ」
と思っています。 | 怒った相手は、頑としてあなたを受け
つけません。 |
| 12 高慢になると身を滅ぼし、
謙遜になると人から称賛されます。 | 20 忠告するのが上手な人は、
ごちそうをたらふく食べたときのような
満足感をいつも味わいます。 |
| 13 よく聞かないで早合点すると、恥をか
きます。 | 21 おしゃべり好きは、
おしゃべりの後始末をさせられます。 |
| 14 心がしっかりしていれば病気にも負け
ません。
しかし、心がうせたら望みはありません。 | うっかり間違ったことを言って
人を死なせる場合もあるのです。 |
| 15 知識のある人はいつも、
新しいことを知ろうと努力します。 | 22 良い妻を見つける人は幸せ者です。
良い妻は神からのすばらしい贈り物で
す。 |
| 16 贈り物には不思議な力があります。
地位ある人の前に彼を導きます。 | 23 貧しい人は拝むようにして頼み、
金持ちは相手を軽蔑しきって答えます。 |
| 17 だれの話でも、他の人が裏を明かして、
全貌がわかるまではもっともらしく思え | 24 友人のふりをする友人もいれば、
実の兄弟より親しい友人もいます。 |

✦ 祈祷課題

☐☐☐☐☐☐

3日(火)

英知を保つ者

今日の聖書箇所 箴言 19:6-21

- 6 高貴な人の好意を求める者は多い。
だれもが、贈り物をしてくれる人の友となる。
- 7 貧しい者は自分のすべての兄弟たちに憎まれる。
友人が彼から遠く離れるのは、なおさらのこと。
彼がことばをもって追い求めても、彼らはいない。
- 8 良識を得る者は自分自身を愛する者。
英知を保つ者は幸いを見つける。
- 9 偽りの証人は罰を免れない。
まやかしを吹聴する者は滅びる。
- 10 愚かな者にぜいたくな暮らしはふさわしくない。
奴隷が君主を支配するのは、なおさらのこと。
- 11 人に賢明さがあれば、怒りを遅くする。
その人の栄誉は、背きを見過ごすことにある。
- 12 王の激しい怒りは若い獅子がうなるよう。
しかし、その好意は草の上の露の

- よう。
- 13 愚かな息子は父にとって破滅。
妻のいさかい好きは、滴り続ける雨漏り。
- 14 家と財産は先祖から受け継ぐもの。
賢明な妻は主からのもの。
- 15 怠惰は人を深い眠りに陥らせ、
怠け者は飢える。
- 16 命令を守る者は自分のたましいを保ち、
自分の道を蔑む者は死ぬ。
- 17 貧しい者に施しをするのは、主に貸すこと。
主がその行いに報いてくださる。
- 18 望みのあるうちに、自分の子を懲らしめよ。
しかし、殺そうとまで考えてはならない。
- 19 激しく憤る者は罰を受ける。
たとえ彼を救い出しても、
ただ、これを繰り返すことになる。
- 20 忠告を聞き、訓戒を受け入れよ。
そうすれば、あなたは後で知恵を得る。
- 21 人の心には多くの思いがある。
しかし、主の計画こそが実現する。



みことばを味わおう

「良識を得る者は自分自身を愛する者。英知を保つ者は幸いを見つける」(8節)。「良識」とは、辞書を引けば「健全な考え方」などと出てきます。「良識を得る」とは、直訳では「心を得る者」(新共同訳は「心を得た人」となります。「良識を得る」、「心を得る」とはどういうことでしょうか。

ホセア書にはこのようなことばを見いだします。「エフライムは愚かな鳩^{はと}のようで、良識がない。エジプトを呼び求め、アッシリアに飛んで行く」(7:11)。北王国イスラエルが滅びに向かう中で、ヤハウェなる神を信頼するのではなく、エジプトを頼りにしたり、アッシリアに助けを求めたり、右往左往する姿を、あっちへ行ったり、こっちへ行ったりして飛んでいるはとの姿に重ねて語られている箇所です。そのような心の定まらないありさま、動物が欲望のままに行動するさまを「良識がない」と預言者ホセアは言っているようです。

そう考えるなら、「良識を得る」というのは、「心をしっかりと定める」ということになるでしょうか。「訓戒を無視する者は自分自身をないがしろにする。叱責を聞き入れる者は良識を得る」(15:32)。箴言において「良識」とは、日和見的にこの世に流されるのではなく、忠告を聞き、訓戒を受け入れるということです。

ここまで語り続けられてきた訓戒や知恵をしっかりと受け止め、従っていくことこそ「良識を得る」ことであり、それが自分自身を愛し、大切にすることなのです。逆に、主の教えを軽んじることは、「自分自身をないがしろにする」ことなのです。「命令を守る者は自分のたましいを保ち、自分の道を蔑む者は死ぬ」(16節)とあるとおりです。

「人に賢明さがあれば、怒りを遅くする」(11節)、「王の激しい怒りは若い獅子がうなるよう。しかし、その好意は草の上の露のよう」(12節)、「激しく憤る者は罰を受ける。たとえ



聖書から教えられたことを書き留めよう

彼を救い出しても、ただ、これを繰り返すことになる」(19節)。今日与えられた箇所では、怒りの感情について繰り返し取り上げられています。怒りの感情をもたない人はいません。イエス様も子どもたちを退けた弟子たちに憤られたことがありました(マルコ 10:14)。しかし、私たちはしばしば自己中心的に怒り散らす者です。自らの正義を掲げて、自らの怒りを正当化することさえあります。私たちの怒りは往々にして動物的な欲望に任せた怒りであることが多いように思います。怒りに任せて、心の定まらないふるまいをしてしまうことがないでしょうか。怒りに任せて隣人を傷つけ、そして自分を傷つけてしまうことが、私たちにはよくあります。

「英知を保つ者は幸いを見つける」(8節)。私たちは、今日も神にある知恵、「英知を保つ」必要があります。「保つ」ことが大切なのです(新共同訳では「守る」)。「保つ」ために私たち側の意志が必要です。意志をもったとしても、主の教えを行えず、同じ過ちを繰り返してしまう者です。しかし、主イエスの十字架の赦しのゆえに、今日、私たちは「英知を保つ」ことへと招かれています。心の定まらない者ではなく、主に心をまっすぐに向けて、今日、私たちに与えられている自分の道を歩み始めましょう。

祈り —— 主なる神様。心が定まらず、右往左往するような私たちです。しかし、今日、みことばを通して語りかけてくださったことを感謝します。私はあなたに心をまっすぐに向けます。あなたに従う幸いのうちを歩ませてください。

✠ 「みことばを味わおう」から教えられたことを書き留めよう

Living Bible リビング・バイブルで読む 箴言 19:6-21

- | | |
|---|-----------------------------------|
| 6 気前のいい人は大ぜいの人に好かれ、だれとでも友になります。 | です。 |
| 7 貧しいと、友ばかりか兄弟にもそっぽを向かれます。 | 14 家や財産なら父親でも息子に残すことができます。 |
| 8 知恵のある人は、自分の一番大事な仕事を愛して成功します。 | 賢い妻は、主から頂くしかありません。 |
| 9 偽証すれば罰せられ、うそをつけば捕まります。 | 15 怠けて眠りこけてばかりいると、そのうち飢えることになります。 |
| 10 愚か者が成功し、使用人が主人を支配するのはふさわしくありません。 | 16 いのちが惜しければ命令を守りなさい。 |
| 11 利口な人は侮辱されても、忍耐を働かせて信用を得ます。 | 命令を無視する者は死にます。 |
| 12 王の怒りはライオンのうなり声のように恐ろしく、優しいことは草に降りる露のように快いものです。 | 17 貧しい人に手を差し伸べるのは、主に貸すのと同じです。 |
| 13 不従順な子は、父にとって煩わしい存在です。 | あとで主が報いてくれます。 |
| 文句ばかり言う妻は、 | 18 まだ望みのあるうちに子どもを懲らしめなさい。 |
| したたり続ける雨もりのようにやっかい | 放っておいて、その一生を台なしにしてはいけません。 |
| | 19 短気な者が失敗したら、自分で後始末をさせなさい。 |
| | 一度でも助けてやると、くり返すようになります。 |
| | 20 忠告はできるだけ聞いて、賢く生きなさい。 |
| | 21 人はたくさんの計画を立てますが、主の計画だけが成るのです。 |

✠ 祈祷課題

☐☐☐☐☐☐

4日(水)

人の心を評価される主

今日の聖書箇所 箴言 21:1-15

- 1 王の心は、主の手の中にあって
水の流れのよう。
主はみこころのままに、その向き
を変えられる。
- 2 人には自分の歩みがみなまっすぐ
に見える。
しかし、主は人の心を評価され
る。
- 3 義と公正を行うことは、
主の前で、いけにえより望ましい。
- 4 高ぶる目とおごる心。
悪しき者のともしびは罪。
- 5 勤勉な人の計画は利益をもたら
し、
すべて慌てる者は損失を招くだ
けだ。
- 6 偽りの舌をもって財宝を得る者
は、
吹き払われるもやのよう。死を追
い求める者だ。
- 7 悪しき者たちは自らの暴力に引き
ずられる。
公正を行おうとしないからだ。
- 8 罪人の道はねじれている。
しかし、純粋な人の行いは真っ
直ぐだ。
- 9 争い好きな女と一緒に家にいるよ
りは、
屋上の片隅に住むほうがよい。
- 10 悪しき者のたましいは悪事に憧
れ、
その目に隣人へのあわれみはな
い。
- 11 嘲る者が罰を受けると、浅はか
な者が知恵を得る。
知恵のある人が賢くなると、その
人は知識を加える。
- 12 正しい方は悪者の家を見抜き、
悪者どもをわざわざに導かれる。
- 13 貧しい者の叫びに耳を閉ざす者
は、
自分が呼ぶときにも答えてもらえ
ない。
- 14 ひそかな贈り物は怒りを鎮め、
懐の賄賂は激しい憤りを鎮める。
- 15 公正が行われることは、正しい人
には喜び、
不法を行う者には恐怖。



みことばを味わおう

「人には自分の歩みがみなまっすぐに見える。しかし、主は人の心を評価される」(2 節)。「まっすぐ」と訳されていることばは、新共同訳では「正しく」となっています。「自己正当化」する傾向が人にはあります。「自己正当化」は、信仰生活の中でしばしば起こることです。そして往々にして「自己正当化」は、律法主義に走り、人との対立、さばき合いに至ります。

使徒パウロを思い出します。パウロは自分の歩みがまっすぐであると自負した人でした。「律法による義については非難されるところがない者でした」(ピリピ 3:6)と自ら言えるほど、徹底的に律法を守り、「その熱心については教会を迫害したほどであり」(同節)しました。人は、自らの道がまっすぐで、正しいと誇れば誇るほど、そうではないと思える人のことが受け入れられなくなります。自らが正義となり、他者は悪となるのです。

悲しいことですが、キリスト教も含めて世界が、「自己正当化」の対立に満ちているように思えてなりません。自らの側に正義があり、相手が間違っている。お互いにそのような主張を繰り返し、ついには力、武力によって白黒をはっきりさせるかのような、暴力団の抗争のようなやりとりが、個人においても、国家においても行われているようです。

そこには「正しさの主張」はありますが、義はありません。正しさの主張には、自分の過ちを認めない傲慢さ、自己絶対化の罪があります。自らの正当性を主張しながら、誇りや名誉、時には利益を確保する思いが潜んでいることさえあります。「罪人の道はねじれている」(8 節)。私たちには、「自分の歩みがみなまっすぐに見える」(2 節) ようですが、実は、ねじれている道を歩む者であるのです。

「主は人の心を評価される」(同節) のです。内面、本質を問われるということでしょう。これ



聖書から教えられたことを書き留めよう

は聞き流すことのできないみことばではないでしょうか。もし、私たちの心を主から評価されたらどうでしょうか。私たちにとって、これはある意味では恐ろしいことに思えます。「私は、したいと願う善を行わないで、したくない悪を行っています」(ローマ 7:19) とのパウロの告白に、私たちは「アーメン」と言うしかない者だからです。

だからこそ、私たちには救いが必要なのです。どんなに正しく、まっすぐなことをいたとしても、そのことが神の前に義とされるわけではないのです。いや義とはなりえないのです。「キリスト・イエスにあるいのちの御霊の律法が、罪と死の律法からあなたを解放したからです」(同 8:2)

心を評価されるならば救いようのない者ですが、キリスト・イエスによって私たちは解放されたのです。この恵みによって私たちは救われるのです。

この恵みの光の中で、私たちはもう一度「罪人の道はねじれている。しかし、純粋な人の行いは真っ直ぐだ」(8 節) のみことばに従って生きるのです。決してまっすぐではない者が、キリストの恵みのゆえに、しなやかに、まっすぐに生きることを目指すことが許されているのです。この恵みに感謝して、新しい一日をまっすぐに歩みましょう。

祈り —— あわれみ深い神様。私たちは罪深く、その心は、あなたの評価に耐えられない者です。しかし、キリストによって私たちを救い出し、あなたに従う道へと招いてくださった深い恵みを感謝します。主に従う者とさせてください。

✿ 「みことばを味わおう」から教えられたことを書き留めよう

Living Bible リビング・バイブルで読む 箴言 21:1-15

- | | |
|--|---|
| 1 ^{かんがい} 灌漑の水が流れ込むように、
主は王の心を思いのままに動かします。 | 9 ^{おこ} 怒りっぽい女とりっぱな家に住むより、
屋根裏部屋の隅で暮らすほうがましです。 |
| 2 どんな行いでも、
もっともらしい理由をつければ正しく見えますが、
神はどんなつもりでそうしたかを見ます。 | 10 悪人は人を傷つけるのが大好きで、
人に親切にしようなどとは考えもしません。 |
| 3 供え物をするより、
正しくあるほうが主に喜ばれます。 | 11 知恵のある人は聞くだけで学ぶことができます。
愚か者は、人をばかにする者が罰を受けるのを
見るまでは、学ぶことができません。 |
| 4 高慢も、情欲も、
悪い行いも、みな罪です。 | 12 正しい方である神は、
悪者が家の中で何をしているのか知っていて、
その者にさばきを下します。 |
| 5 地道に努力すれば利益がもたらされ、
^{ひともう} 一儲けしようと急ぐと貧困がもたらされます。 | 13 貧しい人を助けない者は、
自分が困ったときにも助けてもらえません。 |
| 6 不正で得た富はすぐなくなります。
それなのになぜ、危険を冒そうとするのでしょうか。 | 14 贈り物をすれば、怒っている人もきげんを直します。 |
| 7 悪者は不正を行ってばかりいますが、
いずれその悪事が戻ってきて、
自分を滅ぼすことになります。 | 15 正しい人は喜んで正しいことをし、
悪人を恐れさせます。 |
| 8 行いを見ればその人がわかります。
悪人は悪いことをし、 | |

✿ 祈祷課題

☐	
☐	
☐	
☐	
☐	
☐	

今日の聖書箇所 **箴言 24:19-34**

あなたの畑を整え、
その後で、あなたは家を建てよ。
28 あなたは、あなたの隣人^{となりびと}に対し、
根拠を持たない証人となつてはな
らない。
あなたのその唇で惑わそうする
のか。
29 「彼が私にしたように、私も彼に
しよう。
彼の行いに応じて、仕返しをしよ
う」
と言つてはならない。
30 私は怠け者の畑のそばを、
良識のない者のぶどう畑のそば
を通つた。
31 見よ。茨が一面に生え、
いらくさが地面をおおい、その石
垣は壊れていた。
32 私はこれを見て心に留め、
これを見て戒めを受けた。
33 少し眠り、少しまどろみ、
少し腕を組んで横になる。
34 すると、付きまとう者のように貧し
さが、
武装した者のように乏しさがやつ
て来る。

あなたの畑を整え、
その後で、あなたは家を建てよ。
28 あなたは、あなたの隣人^{となりびと}に対し、
根拠を持たない証人となつてはな
らない。
あなたのその唇で惑わそうする
のか。
29 「彼が私にしたように、私も彼に
しよう。
彼の行いに応じて、仕返しをしよ
う」
と言つてはならない。
30 私は怠け者の畑のそばを、
良識のない者のぶどう畑のそば
を通つた。
31 見よ。茨が一面に生え、
いらくさが地面をおおい、その石
垣は壊れていた。
32 私はこれを見て心に留め、
これを見て戒めを受けた。
33 少し眠り、少しまどろみ、
少し腕を組んで横になる。
34 すると、付きまとう者のように貧し
さが、
武装した者のように乏しさがやつ
て来る。

姓名: 王
 学号: 123456
 院系: 计算机系
 日期: 2023

みことばを味わおう

「悪を行う者に対して腹を立てるな。悪しき者を羨むな」(19節)。なぜ「悪を行う者に対して腹を立てるな」と命じられているのか不思議に思います。悪に対して腹を立てることは、必要なことであるようにも思えるからです。

このみことばは、悪を行う者に対して、私たちが二つの態度をとることを示しています。一つは、悪に対して怒りを覚えること、もう一つは羨むことです。まったく違うように思えますが、よく考えるとこの二つの感情が、私たちの内側に同時に住み着いているようにも思います。

卑近な例で恐縮ですが、筆者が中学生頃、同級生たちの間で万引きがはまりました。その時、万引きをする友人たちを見ながら腹立たしく思う自分と、友人たちが自慢している「戦利品」を羨ましく思う自分がいました。腹立たしく思いながら、どこかで自分も万引きができるのではないか、と思っていたのです。

今となつては思春期の思い出かもしれませんが、「万引き」とは違ったことがらであっても、大人になった今も「悪」を前にして同じような心持ちになることがあるように思います。仕事をする時にも、不正をしながらうまくやっている者たちとの間で、似たような経験をする人もいるかもしれません。

私たちが、悪を行う者に対して腹を立てているのは、悪を行うこと自体に腹を立てているのではなく、悪を行いながらうまくやっている者に対して腹を立てているのではないのでしょうか。こう考えてみるとこの「腹を立てる」という態度は、「羨む」とこと表裏一体なのではないのでしょうか。「私が悪しき者が栄えるを見て　誇り高ぶる者をねたんだ」(詩篇73:3)という詩人のことばが私たちにも当てはまるのではないのでしょうか。(次頁へ続く→)

聖書から教えられたことを書き留めよう

みことばは、戒めの理由をはっきりと告げています。「悪者には将来がなく、悪しき者のともしびは消えるからだ」(20節)。私たちが腹を立てたり、羨んだりするのは、この神のみこころを軽んじているからなのでしょう。悪の力のほうが、神よりも勝っているのではない。悪人が栄え、正しい者は軽んじられているのではないか。そのような思いに、私たちの心が支配されてはいないでしょうか。「主よ いつまでですか 悪しき者が いつまでですか 悪しき者が勝ち誇るのか」(詩篇94:3)と問いたくなる世界が、私たちの中にもあるでしょう。しかし、「悪者には将来がなく、悪しき者のともしびは消える」のです。「彼らには、突然終局が訪れるからだ。主と王から来るわざわいをだれが知るだろうか」(22節)とあるとおりです。

主イエスは「まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます」(マタイ6:33)と言われました。私たちは「悪」に目を向け、心を揺さぶられるのではなく、まっすぐに「神の国と神の義を求める」のです。

祈り —— 義なる神様。私たちの世界をあわれんでください。悪の力がこの世を支配しているようにさえ思えます。しかし、私たちはあなたの御旨がなることを信じて、あなたに従って歩むことができますように、力を与えてください。

✿ 「みことばを味わおう」から教えられたことを書き留めよう

Living Bible リビング・バイブルで読む 箴言 24:19-34

- | | |
|---|--|
| 19 20 悪人をうらやみ、
その財産を欲しがってはいけません。
悪人の最期は目に見えているからです。 | 27 ありがたいことだと思いなさい。
家を建てるのは、仕事かうまくいつてからにしないさい。 |
| 21 22 わが子よ。主と王の前では注意深く行動しなさい。
過激な者たちとつき合ってはいけません。
彼らのいのちは短く、
思いもよらない災いに会うからです。 | 28 29 無実の人について、
わざと不利な証言やうその証言をしてはいけません。
「いい機会だから、これまでの仕返しをしてやろう」と
考えてはいけません。 |
| 23 貧しい人を有罪とし、
金持ちを赦すのは良くありません。 | 30 31 怠け者の畑のそばを通ったら、
いばらと雑草だらけで柵も壊れています。 |
| 24 悪者に向かって「無罪だ」と言う者は、
大ぜいの人のにろわれます。 | 32 33 これを見て学びました。
「もうちょっと眠り、もうちょっと昼寝し、
もうちょっと休もう。」 |
| 25 逆に、悪者の罪をはっきりと指摘する人は、
だれからも感謝されます。 | 34 こんな生活をしていると、どんどん貧しくなり、
どうにもなくなるといことです。 |
| 26 率直に答えてもらえることは、 | |

✦ 祈祷課題

☐☐☐☐☐☐

6日(金)

忠実な使者

今日の聖書箇所 箴言 25:1-13

1 次もソロモンの箴言であり、ユダの王ヒゼキヤのもとにある人々が書き写したものである。

2 事を隠すのは神の誉れ。
事を探るのは王たちの誉れ。

3 天が高く、地が深いように、
王の心は測り知れない。

4 銀から^{かな}金かすを除け。
そうすれば細工人に、良い器が
できあがる。

5 王の前から悪しき者を除け。
そうすれば、王座は義によって堅く据えられる。

6 王の前で横柄にふるまってはならない。
身分の高い人のいる所に立っては
ならない。

7 高貴な人の前で下に下げられるよりは、
「ここに上って来なさい」

と言われるほうがよいからだ。
あなたがその目で見たことを

8 急いで訴え出るな。

さもないと、後になって^{となりびと}隣人が
あなたに恥ずかしい思いをさせた
とき、

あなたははどうしようというのか。

9 あなたは隣人と争っても、
ほかの人の秘密を漏らしてはなら
ない。

10 そうでないと、聞く者があなたを
侮辱し、
あなたの悪いうわさは取り返しがつ
かなくなる。

11 時宜になんて語られることばは、
銀の彫り物にはめられた金のり
んど。

12 知恵をもって叱責する者は、
聞く者の耳にとって金の耳輪、
^{こがね}黄金の飾り。

13 忠実な使者は、これを遣わす者
にとって、
刈り入れ時の冷たい雪のよう。
その人は主人の心を生き返らせ
る。



みことばを味わおう

「忠実な使者は、これを遣わす者にとって、刈り入れ時の冷たい雪のよう。その人は主人の心を生き返らせる」(13節)。刈り入れは4月から5月にかけて行われるようです。その季節は乾季であり、雨が降ることもまれであるといわれています。気温も高く、乾燥している中で、もし「冷たい雪」があったとするなら…。私たちが夏の暑い日に冷たい氷を口にしたとき、生き返るような思いになりますね。今日のみことばは、「忠実な使者」こそ、渴ききった喉を潤す「刈り入れ時の冷たい雪」のようだとたとえているのです。

今日のみことばから二つのことを思います。一つは、主なる神様と主イエスの関係です。父なる神から遣わされた主イエスの歩みは、まさに神様の心を「生き返らせる」ものでした。主イエスが洗礼者ヨハネから洗礼をお受けになった時に、「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ」(マタイ 3:17)と天からの声がありました。主イエスは「人としての姿をもって現れ、自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名を与えられました」(ペリピ 2:7-9)。主イエスの歩みこそ、「主人の心を生き返らせる」ものにほかなりません。今日のみことばは主イエスにおいて成就したといってもよいでしょう。

もう一つは、私たちも主イエスから派遣された「使者」であるということです。主イエスは、十字架を前にした時に、神様に「あなたがわたしを世に遣わされたように、わたしも彼らを世に遣わしました」(ヨハネ 17:18)と祈られました。キリストの弟子たちは、「使者」なのです。主イエスにご自分の働きを、弟子たちにゆだね、継続するようにと命じておられるのです。もちろん救いのみわざは主イエスだけがなしうることです。しかし、主イエスによって明らかにされた神のみこころを世に証しし、神の愛をもって隣人に仕えるわざを行



聖書から教えられたことを書き留めよう

うことは、弟子たちに引き継がれているのです。

今、私たちの世界を顧みたときに、「主人」はどのような心でおられるでしょうか。「不法がはびこるので、多くの人の愛が冷えます」(マタイ 24:12) と主イエスは言われましたが、終末的な様相がこの世にあります。憎しみが憎しみを生み、人と人が傷つけ合っています。この国でも「ヘイト・スピーチ」があり、偏向したナショナリズムが台頭してきています。社会から麗しい潤いが失われ、不寛容な時代になっているようです。

その中で、主イエスの愛に生きる「忠実な使者」の生き方は、「刈り入れ時の冷たい雪のよう」に主人の心を生き返らせるものとなるのです。主の愛に生きることこそ、渇き切った時代の潤いなのです。

あのナチス時代に 6 千人ものユダヤ人を救った杉原千畝さんという方がおられます。外務省の職員であった彼は、日本政府がビザの発行を認めないにもかかわらず、独断でビザを発行しました。彼は「私を頼ってくる人々を見捨てるわけにはいかない。でなければ私は神に背く」と妻の幸子さんに言ったそうです。人間の罪が吹き荒れる時代の中で、杉原さんの行動は、「刈り入れ時の冷たい雪のよう」に、「主人の心を生き返らせる」ものであったに違いありません。私たちたちもまた「使者」であることを心に留めて、今日を生きましよう。

祈り —— 私たちをこの世界へと遣わしてくださる主なる神様。私たちは弱く、欠け多き者ですが、あなたの心を喜ばせる歩みができますように。聖霊の力を送ってください。主の忠実な使者としての歩みを全うすることができますように。

✿ 「みことばを味わおう」から教えられたことを書き留めよう

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

Living Bible リビング・バイブルで読む 箴言 25:1-13

1 次に挙げるソロモン王の教訓は、ユダのヒゼキヤ王に仕えた人々が見つけた書き写したものです。

23 物事を秘密にするのは神の特権、それを探り出すのは王の特権です。だから、天の高さや地の深さ、それに王の考えを知ることはできません。

45 銀からかすを除けば良い器ができ、宮廷から心の腐った役人を追い出せば正しい政治ができます。

67 自分が有力な貴族でもあるかのように、ずうずうしく王の前に出てはいけません。列の最後に回されて、みんなの前で恥をかくより、呼ばれるまでじっと待つほうが利口です。

8-10 かつとなって、よく考えもせずに人を訴えてはいけま

せん。引っ込みがつかなくなり、おまけに裁判にも負けたらどうするのでしょうか。

そんな恥をかかないためにも、まず二人だけでよく話し合いなさい。第三者に告げ口して、陰口をたたいたといつて責められないためです。

口に出してしまったことばを取り消すことはできません。11 ほんとうに必要なときに的確なことばで忠告するのは、銀の器に金のりんごを盛るようなものです。

12 正しい批判を聞くのは、勲章を受けるようにありがたいものです。

13 使用人がよく言いつけを聞いてくれるのは、真夏の涼しい日のように気持ちのよいものです。

✦ 祈祷課題

□

□

□

□

□

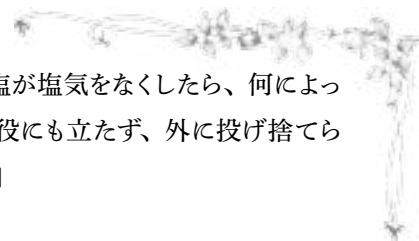
□

7日(土)

地の塩

今日の聖書箇所 **マタイ 5:13**

13 「…あなたがたは地の塩です。もし塩が塩気をなくしたら、何によって塩気をつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけです。…」



みことばを味わおう

山上の説教は、幸福の使信から始まりました。それは、神に祝福された8種類の人々がいるというより、神からの祝福を頂くことのできる同一人物の肖像画を8面から描いたものです。すべては互いにつながっています。自分の貧しさを知り、欠けを認めて悲しむ(他にも悲しみの原因はありますが)。そこから始まり、他者への優しさ、真理や正義への飢え渇き、あわれみや平和やきよさや正しさを、神の前で、社会の中で、そして自分のうちに求める積極的な生き方に進みます。そうしたことが神からの祝福につながるのです。

けれども、そうした生き方は他人を押しつけてでも自分の利益、繁栄、幸福を追求しようとする、この世に多く見られる生き方とは正反対です。流れに逆らい、神のお望みになる生き方を求めなければならないことが多々あるでしょう。当然そこには摩擦が生じ、対立や憎しみに襲われます。「皆が同じ方向に向かってるのに、なぜおまえだけ逆らって違う生き方をするのか、迷惑だ」と悪口を浴びせられ、迫害を受けることもあるでしょう。

けれども、神から祝福される人はひるみません。喜ぶことすらします。その理由は、一つには、地上での苦難と反対に、天において報いが約束されているからです(12節)。もう一つの理由は、この地上において果たさなければならない使命・役割が与えられているからです。それが、今日と明日見ていく箇所です。主イエスは、神の祝福にあずかる人の役割を「地の塩・世の光」という比喻を用いて説明してくださいました。

「地の塩」とは、後半の「世の光」との類比で考えると、「地」とは「世」と同じ、この地上の社会のことであるかもしれませんが、単に岩塩という意味であるかもしれません。イスラエルには死海があり、「塩の海」と呼ばれていました。死海周辺の岩地には多くの塩が含まれていました。そこから採集した塩も日常生活で用いられていたことでしょう。どち



聖書から教えられたことを書き留めよう

8日(日)

世の光

今日の聖書箇所 マタイ 5:14-16

らにしても、この地上の生活で、個人や社会にとって、塩の役割は明確でした。決して大量に必要なわけでも、家庭に他の食料品と比べて大量に保存されているわけでもありません。通常使用されるのはわずかな量ですが、それが食べ物の味を整えます。体の維持のためにも欠かせない要素です。そして、冷蔵庫のない時代、物の腐敗を止め、殺菌する役割も果たします。さらに「契約の塩」(レビ2:13等)として宗教的な用途もありました。

主イエスの話を聞いた人々は、すぐに塩の役割を思い出し、自分たちにどのようなことが求められているのかを知ることができたでしょう。第1に、なくてはならないものです。社会生活で異なった価値観をもち、違う生き方をする人が多く、少数派として孤立することがあるにしても、信仰者は逃げてはいけません。隠遁生活を送るのではなく、社会に切り込んでいく覚悟でなければなりません。

第2に、自分自身が塩気を失ってはなりません。塩気を失った塩は、存在価値がなくなります。創造主なる神を知り、救い主なる主イエスを知る者として、信仰者としての立場を失ってはならないのです。そして、社会に影響力を与えることができます。塩が微量でもその役割を果たすように、クリスチャンが社会に大きな影響力を施すことができるのです。実際、人類の歴史には、クリスチャンの生き方によって変えられたもの、改善されたものが多くあります。私たちは、地の塩として生きる者です。

祈り —— 神様。あなたは私たちに地の塩としての役割を期待しておられます。日本でクリスチャンは少数です。けれども、恐れずに塩としての役割を果たしたいと願います。塩気を失うことがないように、あなたに信頼し続けます。

✠「みことばを味わおう」から教えられたことを書き留めよう

- 14 「…あなたがたは世の光です。山の上にある町は隠れることができません。
- 15 また、明かりをともして升の下に置いたりしません。燭台しょくだいの上に置きます。そうすれば、家にいるすべての人を照らします。
- 16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせなさい。人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようになるためです。…」



みことばを味わおう

主イエスは、神の祝福にあずかる者の役割を、「地の塩」であると同時に「世の光」(従来の新改訳では「世界の光」)であるとお教えになりました。「光」と言ってもさまざまです。私たちにとって最も大きく、基本的な光は、太陽の光でしょう。夜がくると闇が世界を覆い、朝がきて太陽の光が注ぐと、すべてのものが白日の下にさらされます。夜の場合でも、月や星の光が注げば、驚くほど世界は明るく照らされます。夜の光ですらそうですから、昼間の光はましてすべてを隅々まで照らし出します。光は闇を駆逐し、光がなくなれば、闇が再び戻ってきて、すべてを暗黒の中に閉ざします。闇と光は対極にあるものです。

昔の旅人は夜の行程を避けました。猛獣が身を潜めて狙っていても、穴や崖が行く先に待ち構えていても、暗闇ではわからないからです。民家や村や町も、うっそうとした木々に隠れて、家や町の明かりが見えなければ、その存在はわかりません。山の上にある町の明かりは、辛うじて遠くからでも確認できるでしょうが、旅人は不安を抱えながら明かりを目指して進むことでしょう。けれども朝がくれば別です。太陽の光は、山の上に町が存在することを知らせます。山の上の町は、太陽の光の中で周囲に隠れることはできないのです(「山の上にある町」の比喻は、太陽の下では隠れることができないことから、私たちもまたその町のように皆に見られていることを自覚して生きなければならない、といった意味でしょう)。

大きな明かりが太陽だとすれば、小さな明かりは個人が持つたいまつやろうそくの光、各家庭にともされる明かりでしょう。周囲を闇が閉ざしている間、この小さな光が私たちの生活を支え、さまざまな営みを安全に守ります。明かりをともしながら升の下などに隠す者はいません。いるとしたら、闇の中で悪を実行したいと企んでいる者です。まことの神を知る信仰者は、たとえどんなにささやかでも、その人自身が明かりです。周囲に見られていること



聖書から教えられたことを書き留めよう

を自覚しつつ周囲に光を届けて明るくする役割を果たすことができますし、果たすべきです。

主イエスは、光としての私たちの役割を、具体的には「良い行い」をすることだと定義なさいました。そしてその目的は、私たち自身が称賛されるためではなく「天におられるあなたがたの父(なる神)をあがめるようになるため」です。社会や時代によって変わりやすい善悪の判断によって行動するのではなく、たとえ少数であっても(それが「地の塩」の比喻で教えられていました)、神がお教えくださる不変の善悪の基準に従って生きようと心がけると、人々は世界の主であるお方を知り、礼拝するようになるのです。

1974年、「第1回日本伝道会議」の主講師として来日したイギリスの神学者・教会指導者ジョン・ストット氏は、後年著書にこのように記しました。「日本では、それこそひとつまみのプロテスタントのキリスト教徒が、政治問題に倫理的要素をからませて、彼らの数をはるかに上回る大きなインパクトをあたえたことがある。…日本においてキリスト教徒の数は一パーセントに満たないといわれる。…伝道および社会活動を通して神の栄光が現わされるように、社会に法外の影響をおよぼすことは、できないのだ。われわれが、しらけの気分ひたっていてよい理由は、どこにもないのである」(ジョン・ストット著・有賀寿訳『地の塩 世の光 キリスト教社会倫理叙説』すぐ書房、1986年)。たとえ少数であっても、私たちは世界に影響を与えることができます。

祈り —— 神様。私たちが地の塩であり、世の光であると教えてくださってありがとうございます。私たちは小さな者ですが、光であられるあなたの光を反映させ、ささやかでも光として、あなたのことを証しすることができますように。



「みことばを味わおう」から教えられたことを書き留めよう
